

せんばこ
■千波湖のはなし■

かいらくえん となり せんばこ みとしみん
偕楽園の隣にある「千波湖」は、水戸市民ならよく
し ばしよ こんかい せんばこ かんけい れきし しょうかい
知っている場所ですね。今回は、千波湖に関する歴史を紹介し

むかし せんばこ いま ばいじょう ひろ おお ぬま
昔の千波湖は、今より3倍以上広い、とても大きな沼でした。
かたち ほそなが みとしょう てき まも やくだ
形は細長く、水戸城を敵から守るのに役立っていました。

とくがわよりふさ みとはん とうち じだい ねん いま みとし
徳川頼房が水戸藩を統治していた時代(1609~1661年)、今の水戸市
なんぶ みず た ねん びぜんぼり あめ すく とき こめ つく
南部では水が足りませんでした。雨が少ない時は米などが作れず、
ひとびと こま もんだい かいけつ せんばこ はし みず
人々は困っていました。この問題を解決するため、千波湖の端から水を
なが ほり つく ねん びぜんぼり ひとびと みず とど
流すための堀が作られ(=1610年「備前堀」)、人々に水が届くようになった
のです。そして1625年には、武士や商人が住む土地を作るため、千波湖
の干拓※1が かんたく おこな みとはん けいざい おお はってん
行われ、水戸藩の経済は大きく発展しました。

めいじじだい
明治時代※2になると、水戸にも鉄道の駅が出来ました(1889年)。駅の
しゅうへん しがいち つく せんばこ だいきぼ うた けいかく
周辺に市街地を作るため、千波湖の大規模な埋め立てが計画され、
しょうわ しょき ぜんたい やく りくち せんばこ
昭和※3の初期には全体の約2/3が陸地になりました。こうして千波湖は
いま かたち みとしやくしょ ばしよ むかし せんばこ なか
今の形になったのです。水戸市役所がある場所も、昔は千波湖の中
だったのです。

※1 かんたく みずうみ いちぶ ていぼう しき みず ぬ りくち
干拓：湖の一部を堤防で仕切り、水を抜いて、陸地にすること。

※2 めいじじだい ねん しょうわ ねん
明治時代：1868~1912年 ※3 昭和：1926~1989年

きがる きも き
気軽な気持ちで来てね

こうえきざいだんほうじん みとしこくさいこうりゅうきょうかい
公益財団法人 水戸市国際交流協会(MCIA)

かようび にちようび
火曜日~日曜日 9am - 9pm

やす げつよう がつ にち がつはつか
(休み：月曜・2月12日・3月20日)

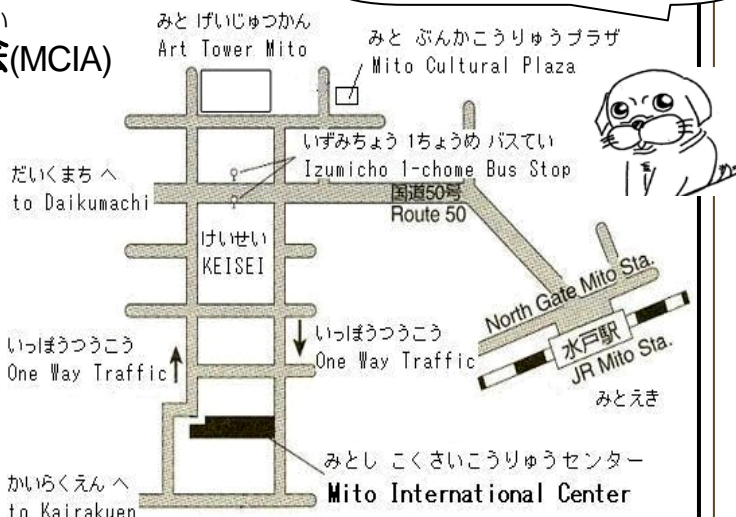
add. 〒310-0024 水戸市 備前町 6-59

tel. 029-221-1800 fax. 029-221-5793

mail mcia@mito.ne.jp

HP http://www.mitoic.or.jp

ご意見・ご要望、お待ちしております





Culture Pot MITO

CONTENTS

イベント

- 水戸の梅まつり
- ひな人形展
- 映画祭、ピアノのコンサート

せいかつ

- 色々な 言語の 新聞
- メッセージボード
- 確定申告

とくしゅう

- 苺農園で 苺狩りを 楽しむ
- AEDを 使う 方法

れきし

- 千波湖の はなし

▼ 写真：外国人のための 市内ウォッチング (11月29日)



水戸市国際交流協会では、水戸市に住む 外国人の方に わかりやすい 生活情報 を とどけるため、2か月に一度、生活情報紙「Culture Pot Mito」を作っています。

「Culture Pot Mito」は、水戸市をひとつの pot (つぼ) に 例えて、その中に たくさんの culture(文化)が 入っているような、多文化共生の 社会を イメージした 言葉です。この情報紙が、みなさんの生活で 役に立ち、水戸市を もっと好きになる きっかけに なることを 願っています。

※ 多文化共生の 社会 = 国・言葉・文化の ちがう 人たち みんなが 住みやすい社会